

平成 30（2018）年 5 月 15 日

史跡宮滝遺跡第 69 次発掘調査等記者発表資料

吉 野 町
吉 野 町 教 育 委 員 会
奈良県立橿原考古学研究所

調査名称	史跡宮滝遺跡第 69 次発掘調査
事業名	史 宮滝遺跡 歴史生き生き!史跡等総合整備活用事業 (町事業名：吉野万葉整備活用事業)
調査地	奈良県吉野郡吉野町宮滝地内
調査面積	約 130 m ²
調査期間	平成 29 年 12 月 13 日（水）～平成 30 年 3 月 28 日（水）
調査主体	吉野町
調査指導	吉野万葉整備活用検討委員会 委員長 菅谷文則（奈良県立橿原考古学研究所所長）
調査担当	吉野町教育委員会事務局 主査 中東洋行
調査協力	奈良県立橿原考古学研究所 指導研究員 廣岡孝信 主任研究員 鈴木一議 ほか 4 名

1. はじめに

史跡宮滝遺跡は紀伊半島を横断する吉野川の北岸に位置し、縄文時代から平安時代にかけての複合遺跡である。縄文時代後期の土器型式である宮滝式の標識遺跡として知られている。また、飛鳥時代（斉明朝）～奈良時代（聖武朝）の吉野宮（離宮）跡として日本史に名を残している。

今回の発掘調査は史跡宮滝遺跡の整備事業に伴う調査であり、平成 27 年度から継続的に行っている。今回発表する平成 29 年度実施の第 69 次調査は、奈良県立橿原考古学研究所が実施した第 41 次調査で検出されていた大型掘立柱建物（SB4101）の規模と構造の確認を目的として実施した。

2. 調査の成果

大型掘立柱建物 1 棟と、その西側で掘立柱塀の柱掘方を確認した。

・ **大型掘立柱建物（SB4101）** ^{けたゆき}桁行9 間（23.7m）× ^{はりゆき}梁行5 間（9.6m）の東西棟の四面^{とう しめん}庇^{びし}建物である【資料 1】。今回の調査では、再検出を含む柱掘方 15 基を検出した。柱間は、身舎^{もや}の^{けたゆき}桁行が 9 尺（2.7m）、^{はりゆき}梁行が 6 尺（1.8m）。^{ひきし}庇の出は、^{けたゆき}桁行が 8 尺（2.4m）、^{はりゆき}梁行が 7 尺（2.1m）をはかる。国土座標に対する振れは、北に対して西に 18.2°傾く。検出した柱掘方は一辺 1.2～2.0m をはかる。抜き取り穴も検出し、抜き取り穴から判断して柱の直径は 30cm 程度とみられる。

柱掘方については重複関係が確認でき、最大で 7 時期あった可能性が考えられるが、全ての掘方で先行する柱掘方の確認はできなかった。このため、先行する掘立柱建物の規模等は不明である。

遺物は柱掘方内から黒色土器の破片が 1 点出土したにとどまる。このため、SB4101 の年代を絞り込むことは困難だが、周辺の調査成果から奈良時代前半の建物と判断した。

・ **掘立柱塀** SB4101 の西 20 尺（6m）の位置で、第 68 次調査で確認していた掘立柱塀を再検出した。上述の SB4101 の梁行方向と平行し、SB4101 の西側を区画する施設とみられる。掘立柱塀の柱掘方にも重複関係が確認でき、最低でも 2 時期あったと考えられる。また、柱掘方には抜き取り穴を確認した。

3. 調査のまとめ

①SB4101 は桁行 9 間、梁行 5 間であり、宮滝遺跡では最大規模の建物である。

②SB4101 は四面庇建物であり、古代における最高位の格式と判断できる建物である。【資料 2】

③周辺の調査の遺構群と主軸が揃っており、同じ計画のもとでつくられたと考えられる。【資料 3・4】

④SB4101 は、周辺の調査成果等から奈良時代前半の建物と考えられる。

（第 38 次調査出土土器や第 23 次調査出土軒丸瓦の年代が奈良時代前半である）

⑤SB4101 には先行する建物があったと考えられる。

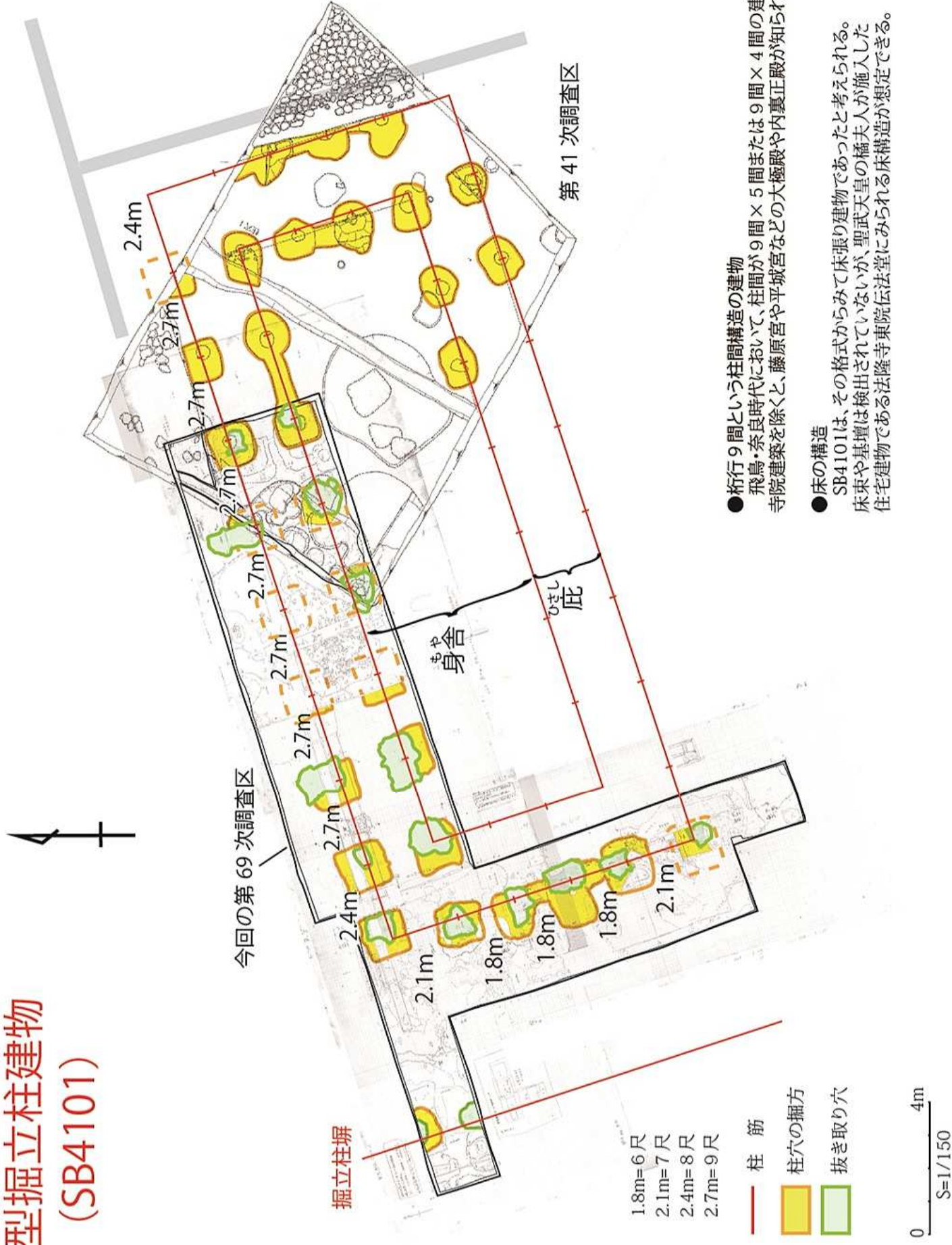
⑥『日本書紀』、『続日本紀』によると、今回検出した大型掘立柱建物は、元正天皇や聖武天皇の行幸があった時期や芳野監*が機能していた時期に符合する【資料 5】

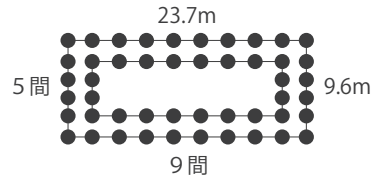
⑦以上の調査成果から、今回検出した大型掘立柱建物は奈良時代前半における宮滝遺跡の中心的な建物であり、元正天皇の養老 7（723）年、聖武天皇の神亀元（724）年と天平 8（736）年の行幸があった吉野宮の中心的な建物等と考えられる。

⑧吉野宮の所在地を巡っては、宮滝説以外に土屋文明らの大淀町比曽説などあるが、今回の成果を鑑みれば、宮滝説の蓋然性が高まったと評価できる。

※…奈良時代の行政機構の一つ。『続日本紀』では天平 4（732）年～天平 10（738）年に芳野監の記述があるが、建置と廃止の時期は明らかでない。吉野宮管理のために設けられた在外監司（官衙）と考えられている。（参照：『国史大辞典』吉川弘文館）

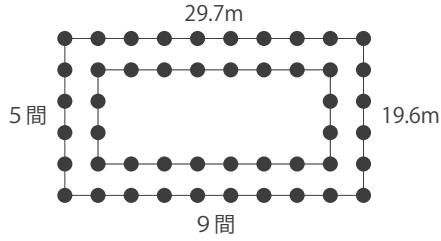
大型掘立柱建物 (SB4101)



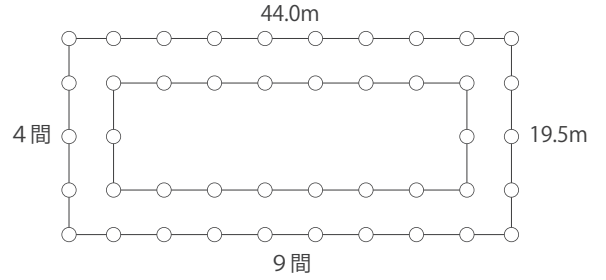


1. 宮滝遺跡（吉野宮）
SB4101

奈良時代

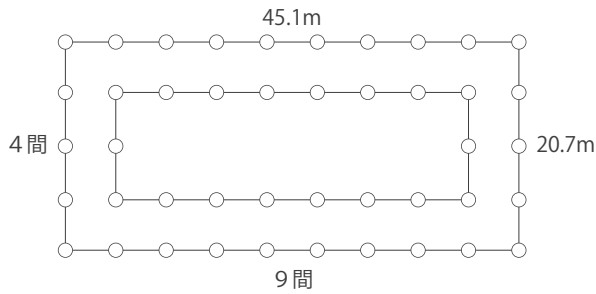


2. 飛鳥宮Ⅲ期遺構
エビノコ大殿 SB7701

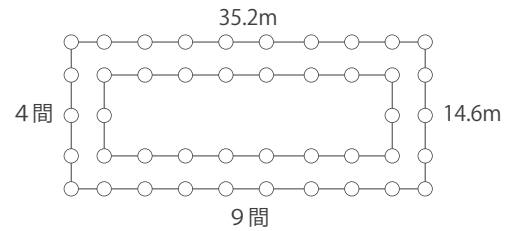


3. 藤原宮大極殿

飛鳥時代

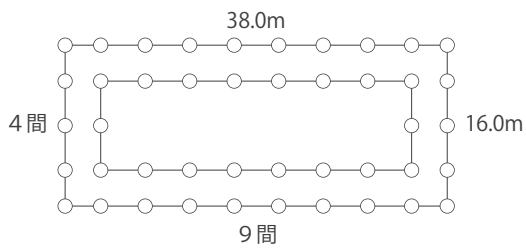


4. 平城宮第一次大極殿 SB7200

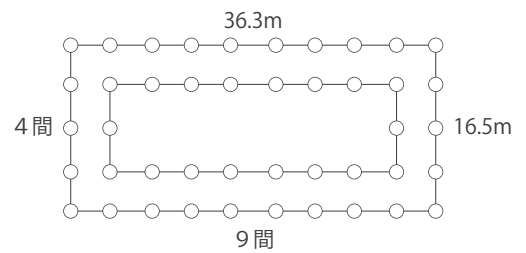


5. 後期難波宮大極殿

奈良時代



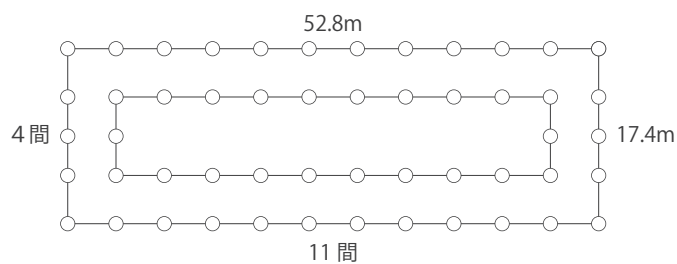
6. 平城宮第二次大極殿
SB9150



7. 長岡宮大極殿

奈良時代

凡例
●: 掘立柱建物
○: 礎石建物



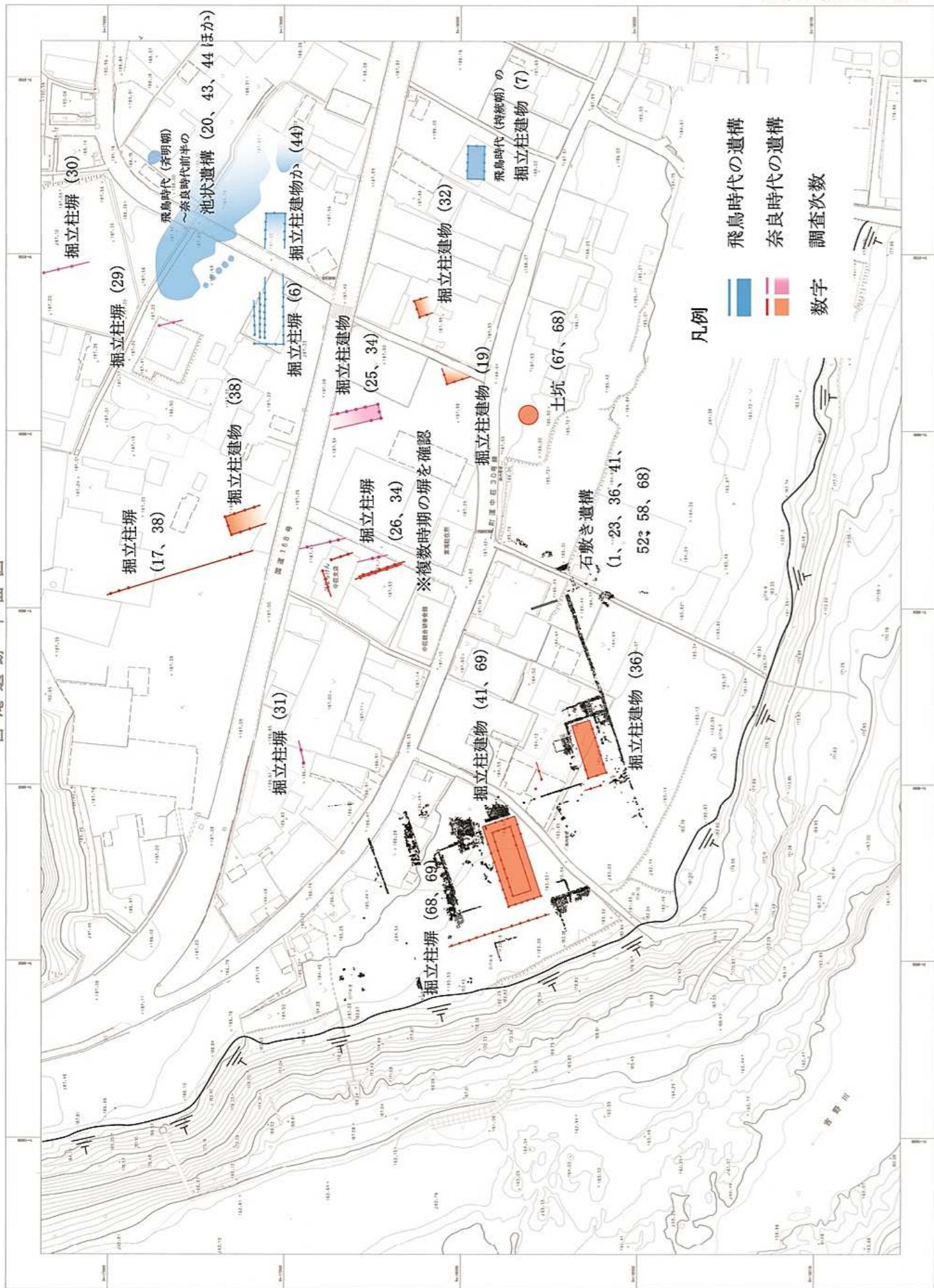
8. 平安宮大極殿



平安時代



宮滝遺跡 平面図



○宮滝遺跡の保存と整備に関する略年表

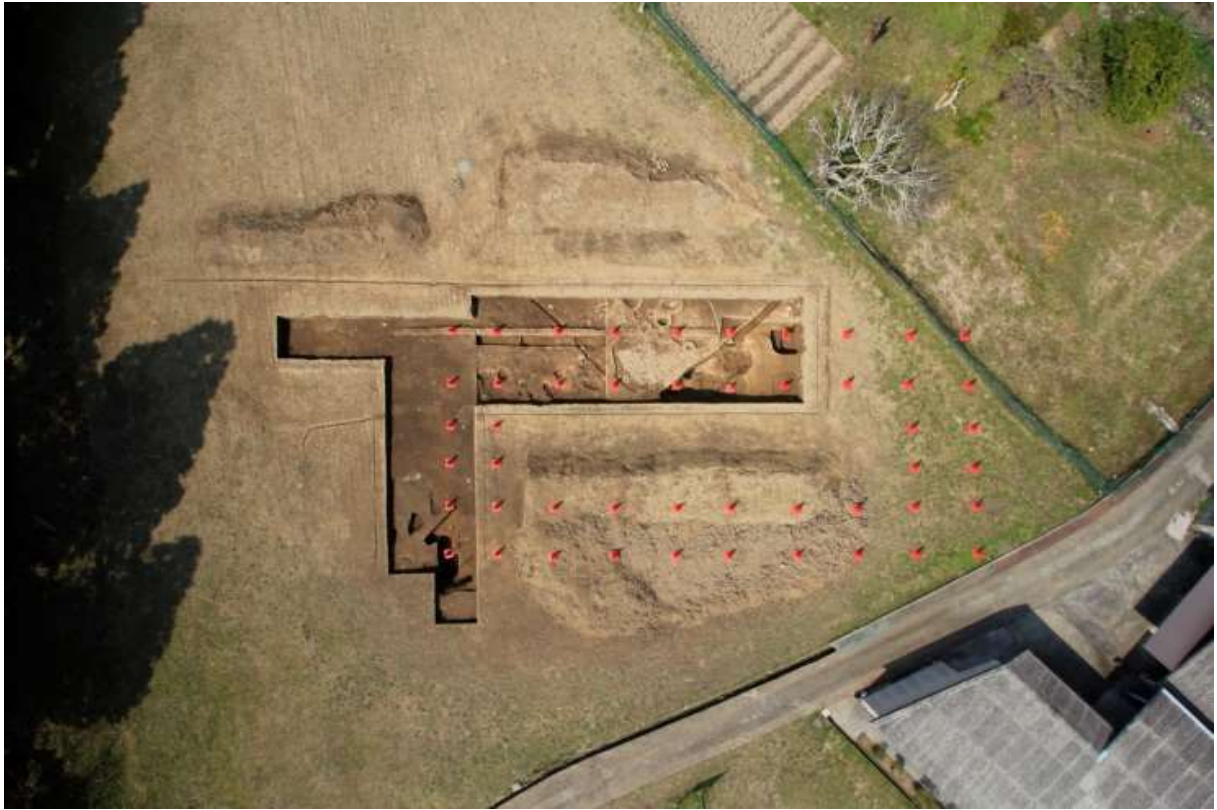
資料 5

時期	内容
昭和 5(1930)～13(1938)年	奈良県史蹟名勝天然記念物調査会 末永雅雄氏による発掘調査が行われる。
昭和 10(1935)年	中荘小学校内に郷土室を設置。
昭和 19(1944)年	『宮滝の遺跡』刊行。(後、昭和 61 年に『増補宮滝の遺跡』刊行)
昭和 32(1957)年 7 月	宮滝遺跡のうち 22,625 m ² が、国史跡（史跡宮滝遺跡）として指定を受ける。 指定の際、末永雅雄氏や郷土史家 橋本清左衛門氏らの尽力があった。
昭和 41(1966)年 5 月	中荘小学校（現・吉野宮滝野外学校）校庭に宮滝出土品収蔵庫を設置。
昭和 58(1983)年	史跡宮滝遺跡公有化事業を開始。
昭和 63(1988)年	中荘小学校校庭拡張工事に伴う発掘調査で遺構保存が協議され、遺構保存施設が完成。
平成 8(1996)年	吉野歴史資料館開館。『奈良県史蹟名勝天然記念物調査報告書第 71 冊 宮滝遺跡（遺構編）』刊行。
平成 24(2012)年	宮滝遺跡第 1 次調査出土縄文土器・石器が県指定文化財となる。
平成 25(2013)年	『吉野万葉整備活用計画策定方針』策定。「吉野万葉整備活用計画基本構想策定委員会」設置。
平成 26(2014)年	『吉野万葉整備活用計画基本構想』策定。委員会名を「吉野万葉整備活用検討委員会」と改称。
平成 27(2015)年～	整備に向けた発掘調査を開始。

○主に奈良時代前半の吉野に関する略年表

(※書紀…『日本書紀』、続紀…『続日本紀』)

時代	時期	内容	出典※	関連する主な調査成果
飛鳥	斉明天皇 2 (656) 年	吉野宮をつくる	書紀	
	斉明天皇 5 (659) 年 3 月	斉明天皇、吉野宮行幸	書紀	
	天智天皇 10 (671) 年	大海人皇子、大津宮を発ち、吉野宮に入る	書紀	
	天武天皇元 (672) 年 6 月	大海人皇子、吉野宮を発ち、壬申の乱を起こす	書紀	
	朱鳥 3 (689) 年～朱鳥 11 (697) 年	この間、持統天皇が吉野行幸を 31 回行う	書紀	
	文武天皇 3 (699) 年 8 月	吉野宮付近などで木が枯れる	続紀	
	大宝元 (701) 年 2 月	文武天皇、吉野離宮行幸	続紀	
	大宝元 (701) 年 6 月	持統太上天皇、吉野離宮行幸	続紀	
	大宝 2 (702) 年 6～7 月	文武天皇、吉野離宮行幸	続紀	
奈良	養老 7 (723) 年 5 月	元正天皇、芳野宮行幸	続紀	第 1 次調査 石敷き遺構・石組み溝を検出。 第 25・38 次調査ほか 南北棟掘立柱建物を検出。 第 36・41 次調査 石敷き遺構に囲まれた区画内に掘立柱建物を確認。 第 44 次調査 飛鳥時代の池状遺構から平城Ⅱの土器が出土。
	神亀元 (724) 年 3 月	聖武天皇、芳野宮行幸	続紀	
	天平 4 (732) 年 7 月	両京・四畿内と二監に祈雨をさせる	続紀	
	天平 4 (732) 年 11 月	京と畿内・二監との罪人に恩赦をあたえる	続紀	
	天平 5 (733) 年正月	芳野監・讃岐・淡路等の国で旧年の実りが悪かったため、正税稲を無利息で貸与する	続紀	
	天平 6 (734) 年 5 月	天平 4 年の飢饉以降、百姓困窮のため、左右京・芳野・和泉・四畿内の百姓に大税を貸与する	続紀	
	天平 8 (736) 年 6～7 月	聖武天皇、芳野離宮行幸 芳野監と側近の百姓とに物を賜る	続紀	
	天平 10 (738) 年 10 月	京・畿内と芳野・和泉監の田租を免除する	続紀	
平安	昌泰元 (898) 年	宇多上皇、菅原道真らを伴い宮瀧行幸	日本紀略	



第 69 次調査区全景と SB4101 の規模（垂直写真）



第 69 次調査区全景（北西から撮影、カラーコーンは SB4101 の柱掘方の位置を示す）



SB4101 の柱掘方と重複する柱掘方（東から）



第 68 次調査と第 69 次調査の合成写真



調査区周辺の航空写真と第 69 次調査区（合成写真）